



外来通院患者の糖尿病コントロール

<糖尿病とHbA1c>

ヘモグロビン (Hb) とは、血液の赤血球に含まれているタンパク質の一種で、酸素と結合して酸素を全身に送る役目を果たしています。このヘモグロビン (Hb) は、血液中のブドウ糖と結合するという性質を持っているんです。そのブドウ糖と結合した物の一部分が、ヘモグロビン A1c と呼ばれています。

血液検査の結果、この HbA1c の値が高ければ高いほどたくさんのブドウ糖が余分に血液中にあってヘモグロビンと結合してしまったということがわかります。

正常な成人の HbA1c 値は 6.2%以下とされています。

一方、それ以上の数値ですと、高血糖状態が続いていた、ということになります。この数値が、8.4%を超えた状態が長く続きますと、色々な合併症を起こすと言われていいますので、多くの医療機関では、この数値を下げることに主眼がおかれています。

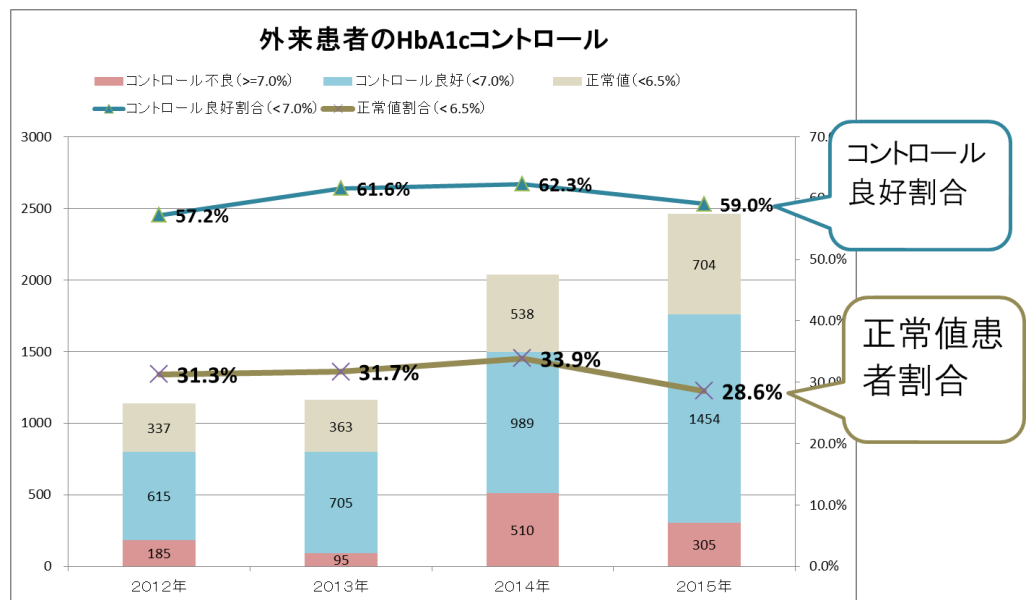


<当院の取り組み>

糖尿病患者の病状を安定させるには、適切な食事療法や運動療法の指導および薬物療法の実施が必要です。当院では患者の血液検査のデータから異常値を抽出、糖尿病治療薬使用患者の抽出により、指導が必要な患者をリストアップし、個別の栄養指導や集団糖尿病教室の定期的開催、糖尿病患者会の運営等、積極的な指導の実施に取り組んでいます。

<指標と結果>

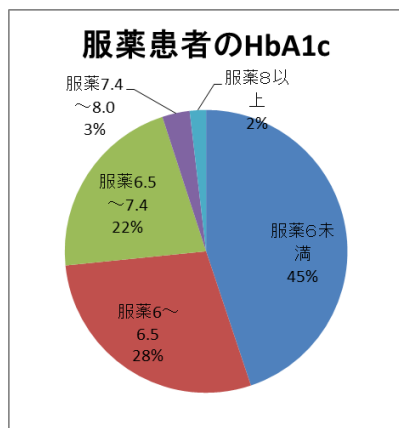
本指標では、外来患者の中の A) HbA1c < 7.0%: コントロールが良好な患者の割合 と、 B) HbA1c <



6.5%：正常値の患者の割合をみることで、診療の質を評価しています。

本年は「コントロールが良好な患者の割合」「正常値の患者の割合」共にやや低下しました。

また、当院では糖尿病薬を処方している外来患者に絞ってHbA1cの調査も行っています。



服薬患者においては73%が6.5未満を維持し、95%が7.5未満となっております。

年代で比較すると、60代以上の患者はコントロール良好ですが、若年化するほどにコントロール不良の患者割合が増加傾向になり、これらの若年性糖尿病患者の対応が課題となっております

